

以下のリストは、特定の製品に適用される追加の利用条件を示す。個々の製品名の後に示される数字は、当該製品に適用される利用条件の番号を表す。ここに示す利用条件は、本契約を補足するものである。各利用条件の具体的な内容は、製品リストの後に記されている。注文関連ドキュメントで特に断りのない限り、エクステンション製品の利用条件は、対応する製品の利用条件に準拠する。

## デスクトップ製品

- ・ ArcGIS Desktop (Advanced、Standard、または Basic) (26)
- ・ ArcGIS Earth (20、65)
- ・ ArcGIS Explorer Desktop (20)
- ・ ArcGIS for AutoCAD(20)
- ・ ArcPad (13)
- ・ ArcReader (20)
- ・ ArcGIS for Personal Use (3、26)

## サーバー製品

- ・ ArcGIS Enterprise
  - Basic (17)
  - Standard または Advanced (17、21、23、31)
  - Workgroup Standard または Advanced (21、23、28、29、30)
  - ArcGIS GIS Server (Standard または Advanced) (31)
  - ArcGIS GIS Server Basic (39)
  - ArcGIS GIS Server Workgroup (Standard または Advanced) (28、29、30)
  - ArcGIS GIS Server Workgroup Basic (39)
  - ArcGIS GIS Server Extension
  - ArcGIS for Maritime: Server (2)
  - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server (4)
- ・ Esri Business Analyst for Server
  - Workgroup (28、29、30、31、39)
  - Enterprise (31、39)
- ・ World Geocoder for ArcGIS Basic (67)

## 開発者ツール

- ・ AppStudio for ArcGIS Standard (11、16、19)
- ・ ArcGIS Runtime SDK for Android、iOS、Java、macOS、.NET、Windows Phone、Qt、WPF (16、19)
- ・ ArcGIS Runtime Basic Level for Android、iOS、Java、Mac OS X、Microsoft .NET Framework (Windows [desktop]、Windows Phone、Windows Store)、Qt、WPF (1、20)
- ・ ArcGIS Runtime Basic Level、Standard Level、Advanced Level、Analysis Extension for Android、iOS、Java、Mac OS X、Microsoft .NET Framework (Windows [desktop]、Windows Phone、Windows Store)、Qt、WPF (15、18)
- ・ ArcGIS Engine Developer Kit およびエクステンション (16、19、22、26)
- ・ ArcGIS Engine for Windows/Linux およびエクステンション (15、22、26)
- ・ ArcGIS Web API for JavaScript (16、64)
- ・ ArcGIS Developer Subscription (24、26)
- ・ Esri File Geodatabase API (47)

## モバイル

- ・ Navigator for ArcGIS (14)

## Online Services

- ・ ArcGIS Online Developer Deployment Plan は、以下の複数の販売プログラムで入手可能。
  - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム
    - + 無償サブスクリプション (68、75、76、79、81)
    - + 有償サブスクリプション (68、75、76、77、79)
  - 教育プログラム (無償または有償サブスクリプション) (68、70、71、72、73、75、76、79、81)
  - NGO/NPO、プレス/メディア プログラム (無償または有償サブスクリプション) (68、70、71、72、73、75、76、79、81)
- ・ ArcGIS Online のサブスクリプションは、以下の複数の販売プログラムで入手可能。
  - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム (68、69、70、77、78、82)
  - 教育プログラム (68、69、81、82)
  - 非営利プログラム (68、69、81、82)
- ・ Public Plan
  - 商業販売、エンタープライズ契約、政府、NGO/NPO、プレス/メディア プログラム (68、71、72、73、74、75、76、80、81)
  - 教育プログラム (68、71、72、73、74、75、76、80、81)
- ・ AEC Project Delivery Subscription (83)

## 利用条件：

1. ダイレクトコネクションによるエンタープライズ ジオデータベースの編集には使用できない。
2. ナビゲーション用途には使用できない。
3. 個人使用に対してのみ使用許諾される。
4. ArcGIS Enterprise Workgroup と併用する場合
  - 4コア サーバー1台に限定される。
  - 独立した別のマシンにインストール可能。
- 5-10. 未使用
11. AppStudio for ArcGIS Standard で構築されたアプリケーションは、ArcGIS Runtime Standard Level の利用条件に従うものとする。
12. 未使用
13. 二重用途ライセンスとして使用が許諾される。
14. ナビゲーション目的での使用が許可される。
15. デプロイメント ライセンスとして使用が許諾される。
16. 顧客は SDK または API を使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンド ユーザーに対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
17. 顧客は本製品に含まれる Oracle JDBC Driver またはそのドキュメンテーションを再配布してはならない。Oracle は本契約の第三者受益権者である。
18. デプロイメント ライセンスは、独立したアプリケーション用のマシン 1 台の付加価値アプリケーション 1 つにつき 1 つである。
19. ライセンスを、インターネットベースまたはサーバーベースの付加価値アプリケーションの開発に使用することはできない。
20. 再配布ライセンスとして使用が許諾される。
21. 顧客は、顧客の指定ユーザーによる使用を目的として付加価値アプリケーションを構築できる。顧客は、(i) 付加価値アプリケーションに指定ユーザーの資格情報を組み込んでではなく、(ii) 付加価値アプリケーションにアプリケーション ログイン資格情報の組み込みまたは使用を行ってはならない。顧客は、(a) 資格情報を使用しない付加価値アプリケーションへのパブリック アクセスまたは (b) 一意で個別の指定ユーザー ログイン資格情報を使用したアクセスを許可することができる。

22. (a) 1台のマシン上でArcGIS Engineアプリケーションを実行する権利を取得するには、エンドユーザーは、ArcGIS Engine for Windows/Linuxソフトウェアまたはその他のArcGIS Desktopソフトウェア(Basic、Standard、Advanced)のいずれかのライセンスを取得しなければならない。
- (b) ArcGIS Engine付加価値アプリケーションを実行する場合、ArcGIS Engine for Windows/LinuxエクステンションをArcGIS Desktopソフトウェアと組み合わせて使用してはならない。エンドユーザーは、自身のみが使用する場合に限り、1台のマシンに複数のArcGIS Engine付加価値アプリケーションをインストールすることができる。
23. システム間通信
- a) 顧客は、Basic サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise から顧客の組織内にある他の第三者作製エンタープライズ ビジネス システムに対して、一方向の読み取り専用の通信を行うことができる。顧客は、Esri が実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、レベル 1 の指定ユーザーの資格情報を Basic サービス ログインのために使用できる。Basic サービス ログインのために使用されるレベル 1 の指定ユーザーの資格情報は、システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
- b) 顧客は、Standard サービス ログインを使用して、ArcGIS Enterprise と顧客の組織内にある他の第三者作製エンタープライズ ビジネス システム間で、双方向の読み書き可能な通信を行うことができる。顧客は、Esri が実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、レベル 2 の指定ユーザーの資格情報を Standard サービス ログインのために使用できる。Standard サービス ログインのために使用されるレベル 2 の指定ユーザーの資格情報は、システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
24. ソフトウェアは、プロトタイプ付加価値アプリケーションの開発、テスト、デモンストレーション、およびマップ キャッシュの作成のみを目的として使用できる。顧客は、付加価値アプリケーションとマップキャッシュを、ArcGIS Enterprise ステージング サーバー ライセンスおよびデプロイメント サーバーライセンスで使用できる。Builder 以上のプランを契約している ArcGIS Developer Subscription 契約者が使用する目的で、ソフトウェアおよびデータを複数のマシンにインストールすることができる。他のすべてのソフトウェアは、単独使用ライセンスとして使用が許諾される。
25. 未使用
26. ジオデータベースへの顧客のデータの保存は、10 ギガバイトに制限される。
27. 未使用
28. ArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroup以外のアプリケーションの同時使用はエンドユーザー10名に制限される。この制約事項には、ArcGIS Desktopソフトウェア、ArcGIS Engineソフトウェア、およびArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupジオデータベースに直接接続する第三者作製アプリケーションの使用が含まれる。ウェブ アプリケーションからの接続数には制限はない。
29. ソフトウェアには、サポートされるバージョンのSQL Server Expressが必要である。サポートされるバージョンは、製品のシステム要件とともにEsriウェブサイトに掲載されている。
30. 顧客データの容量は、最大10GBに制限される。
31. フェイルオーバー ライセンスが含まれる。
32. 未使用
- 33-38. 未使用
39. ArcGIS GIS Server Basic および ArcGIS GIS Server Workgroup Basic では、ArcGIS GIS Server に含まれている編集機能は使用できない。
- 40-46. 未使用
47. 顧客は、顧客のエンドユーザーに対し、Esri File Geodatabase APIを使用する付加価値アプリケーションを開発および配布することができる。
- 48-53. 未使用
54. 未使用
- 55-63. 未使用

64. ウェブ デプロイメント用の付加価値アプリケーションは、他の Esri 製品と併用しなければならない。他の Esri 製品と常に併用する場合に限り、付加価値アプリケーションに第三者の技術をあわせて使用することができる。
65. 他の Esri 製品とのみ併用できる。ArcGIS Earth と他の Esri 製品を常に併用する場合に限り、ArcGIS Earth とともに第三者の技術も使用できるものとする。
66. 未使用
67. ジオコードは、年間サブスクリプションにつき、2億5千万(250,000,000)件に制限される。
68. ArcGIS Onlineサブスクリプションがない場合、顧客は、World Geocodingサービスによって生成された結果を保存することはできない。顧客は、Infographicsサービス経由でアクセス可能なデータを表示目的のみ使用できるが、これを保存することはできない。
69. 顧客の組織におけるビジネス目的での使用が許可される。
70. 顧客の組織における開発およびテストの目的での使用が許可される。
71. 教育機関における教育目的での使用が許可される。
72. 認定されたNGO/NPO組織の便益を目的とした使用が許可される。
73. 報道機関の便益を目的とした使用が許可される。
74. 個人使用目的での使用が許可される。
75. 共有ツールを使用して公的に共有することによってのみ、顧客は第三者による付加価値アプリケーションの使用を許可することができる。顧客は、自らの業務上の使用を目的として付加価値アプリケーションを稼働させるために本サブスクリプションを使用することはできない。ただし、顧客が、教育目的に限定して付加価値アプリケーションを使用する教育機関、認定されたNGO/NPO組織、または報道機関である場合を除く。
76. 顧客は、プライベート グループの作成またはプライベート グループへの参加を許可されない。
77. 顧客は、付加価値アプリケーションを第三者に有償で利用させることができる。
78. 顧客は、このサブスクリプションを使用して、プライベート グループの作成またはプライベート グループへの参加ができる。
79. 月あたりの Geosearch トランザクション件数は、サブスクリプションにつき 100 万(1,000,000)件に制限される。Geosearch トランザクションには、Basemap データと Geocode Search の両方のトランザクションが含まれる。1つの Basemap データ トランザクションは、8つの 256x256 タイル リクエストに相当する。1つの Geocode Search トランザクションは、1つの住所または場所に相当する。Geosearch トランザクションの結果を、バッチ ジオコーディングの場合のように保存した場合、保存された結果はトランザクションの上限カウントには含まれない。ただし、ストレージはサービス クレジットを消費する。
80. 登録された教育機関の学生に対し、教育目的に使用する場合に限り、1つのサブスクリプションを複数の登録された学生で共有し、Online Services に直接アクセスすることができる。
81. 顧客は、付加価値アプリケーションを第三者に有償で利用させることはできない。
82. 特定の指定ユーザーのみが使用するワークフローを自動化しようとする場合に限り、当該指定ユーザーの資格情報を ArcGIS API for Python 自動化スクリプトに組み込むことができる。
83. 顧客は、顧客のクライアント(以下「クライアント」)ごとに独立した AEC Project Delivery Subscription を使用しなければならない。顧客は、(i) AEC Project Delivery Subscription をそのクライアントとプロジェクト作業で協働することのみを目的として使用し、(ii)顧客がクライアントのために遂行するプロジェクト作業で、クライアントが AEC Project Delivery Subscription にアクセスして協働できるように、AEC Project Delivery Subscription への指定ユーザー アクセスをクライアントに提供できる。クライアントは、それ以外の目的で指定ユーザー ライセンスを使用することはできない。顧客は、クライアントによるこれらの利用条件の遵守について一切の責任を負い、プロジェクト終了時には、クライアントに AEC Project Delivery Subscription の利用を確実に停止させるものとする。